

「物事に特にこだわりはありませんが、多岐にわたる。なんとなんとなく決めることが多くですね。でもやると決めたら、納得できるまでやりたいんです」

自分の言いたいことを、まっすぐ相手の目を見て話す。それがとても印象的。

札幌出身の彼女は、ある決意を胸に上京した。

「4年間自分の力で学費を払うこと」

軟式野球サークルのマネージャーや、学部ゼミで開発経済を勉強するかわら、経済学部の給付や外部の奨学金を合わせて足りない分を、アルバイトで補った。なかでも日本経済新聞社でのアルバイトは、進路を方向づけるきっかけになった。

「はじめ新聞記者志望だったので。もっとも業務は編集アシスタントで、外国にFAXしたり、できたものを配ったりするものでしたね」

なんとなく憧れとのズレを感じていると、社内に置いてある経済に関する本が目が止まり、空き時間ができると読むようになった。

「読んでいくうちに私には、なに

か自分から行動を起こすことが向いているのでは、と思うようになったんです」

そして、就活本番。メーカー系を中心にチャレンジして、製薬会社3社から内定を取り、帝人ファーマを選択した。

「実際に現場で働く先輩と話す機会をたくさん与えてくださったのが決め手でした」

職種はMR（メディカル・リプレゼンタティブ）。MRは医薬品分野の専門資格

**健康美人が選んだ**

**薬のプロ「MR」**

経済学部 大津 梓さん

野の専門資格で、自社の薬を病院に売り込む営業場面でもモノをいう。文系学部出身で、不安いっぱいかと思っていたら……。

「この前ちよつと風邪をひいたときに買った薬に、帝人ファーマと書いてあったんですよ。うれしくてその箱はいつも持ち歩いて、友だちに『これ、私の就職先なのよ』って見せてます！（笑）」

愛社精神を胸に、病気知らずの健康美人は、4月から愛媛の松山工場で半年間のMR研修に入る予定だ。

(津江)

7年前、たった5キロの荷物で降り立った東京の地。ブイさんはまずこう思った、

「おしん」と違う!!」

——故郷はベトナム北部、ナンディン県。日本については、放映されて大人気の「おしん」くらいしか知らなかった。高層ビル、若い人の服装……想像していた「おしん」の日本とのあまりの違いに驚いた。

日本の国費留学生の試験を受けたものの、一言も日本語を知らない彼女はすっかり

**「おしん」のいない**

**日本で学んだ文化論**

商学部 ブイ・ティ・コクさん

合格通知をもらい、その2カ月後に出発した。

「本当にびっくりしたけど、それよりもうれしさのほうが大きかった。留学なんて夢みただった」

1年間の日本語学校、2年間の情報処理の専門学校ののち、中央大学に入学。商学部商業・貿易学科を志したのは、アジア経済を学び、ベトナム・日本間の貿易の仕事に携わろうと思ったからだ。卒業論では日本文化を研究。日本独特の文化

がどのように海外で融合していくのかをテーマにした。きっかけはアルバイトやゼミで感じた「集団主義」や「タテ社会」の考え方。

「日本人は和を乱さないように考えすぎるから、自分の意見も言いにくい。ゼミで発表者の意見が自分の意見と違うと感じてもみんな何も言わないでしょ？ あとは、飲み会でもそう。行きたくないなって思っても、無理に参加したり……」

「海外に進出していくことで少

しずつ日本は変わってきています。能力主義を取り入れたりね。互いに交じり合っていくと思います」

います」

流暢な日本語で語り、時にはすらすらと文にして説明するブイさん。

生活費と学費は全部アルバイトでまかなった、がんばり屋さんの彼女、4月からは日本の企業でアジア留学生の教育に携わる。いずれはベトナムに帰国し、日本での経験を生かした仕事をしたそう。今度はブイさんが第二の「おしん」としてベトナムと日本をつなぐ新しい架け橋になってください！

(阿部)



## 世

界水泳に出場、中大水泳部インカレ11連覇達成の立役者は、泳ぎつづける。3年後の北京五輪、その栄光の表彰台へ向かって……。

小学2年のとき、水泳を始めた。「泳げないのがきつかけだった」という。早や中学で、国体では兵庫県中学記録を樹立。高校は報徳学園へ進み、インターハイで大会新記録を更新して3冠を獲得。さらに、シドニー五輪最終選考会では、男子二百メートルで2位、高校新記録を達成した。188センチの長身、日本記録更新とアテネ五輪出場の夢を重ねて、水泳の名門・中大へ進学した。「記録を出した時の達成感はまだないけど、自分の泳ぎを追い求めたい」

この気持ちを大事に、大学では、日々6時間、「自分でも怖いくらい」に練習に打ちこんだ。そして、03年7月の「世界水泳バルセロナ大会」である。日本代表として、男子四百メートルメドレーリレーに出場した。国内を湧かせた「アテネ五輪」組の森田智己、北島康介、山本貴司3選手と組み、アメリカ、ロシアに次ぎ、日本新で銅メダルを獲得したのだった。

振り返る。「バタフライの」山本選手からバトンを受けとった時は、（追いつけてきた）フランス

には負けられないと精一杯泳いだ。泳ぎ切ったけど、怖くて直ぐにボードは見られなかった。周りが騒いで初めて3位と知った」

その彼が、アテネ五輪の出場を逸した。世界水泳で一緒だった森田、北島、山本各選手に加え、本来自分がいるべき自由形の座に1学年下の奥村幸大選手が入った。そしてアテネ・日本チームは四百メートルメドレーリレーで銅メダルを獲得した。

「日本の銅メダルの獲得はうれしかった。でも個人的には記録が伸び悩んでいたし、テレビを見て、落ちこんだりしました。日本水泳陣が快調だっただけに、挫折感も強かったのだ。」

しかし、「1人で水泳をやっているわけではないし、納得できるまで泳ぎたい。そして、水泳を楽しみながら、自己ベストを出していきたい」。



気持ちを切り替えて、大学最後のインカレに臨んだ。まず男子百メートル自由形で、アテネ代表の

奥村選手を退けて堂々2連覇を果たした。しかも、50秒13。日本新の見事さで。

「自分のベストがたまたま日本記録になつてたわけで……。今は記録が破られるのは嫌だけど、日本新記録保持者つてことは、ほとんど意識はしてない

### 目指すは北京五輪メダリスト & 流行語大賞の「2冠」 法学部 細川大輔さん

識はしてないね。それよりも、最後の八百メートルリレーに感動っ

と、みんなで成し遂げた「インカレ11連覇」の大きさを強調するのだ。中大水泳部の強さの秘訣は、「チームワークのよさ」という。

「パーベキューをしたり一緒に銭湯に行ったり。寮生活では縦と横のつながりも自然に身についた。水泳部では、どうやら「お父さんの」存在だったようである。

現在は、SATに所属し、コーチから手渡された『ICHIRO』の本を読みふけた。

「ICHIROは自分の納得した野球をやつて記録を作った。自分も納得した水泳をして記録を作りたい」

「水泳は自分を表現できるもの」と端的に集約し、北京五輪への道を熱く語る。

「自分の泳ぎを追求して、メダルを獲得したい」と。

イアン・ソープやピーター・ファンデンホーヘンバントラ、世界中のツワモノが0・01秒を競い合う男子自由形。目標は世界記録の百メートル47秒。「敵は自分。北京までの4年間は、長いようで短い。1日1日を大切にしたい」と語る。

いかにもタフなイメージだが、近所の軽食屋の100円パスタが「友だちになるほど、好き」という一面も。

あの北島選手とは、「コースケ」「ダイスケ」と呼び合う仲だ。昨年の流行語大賞で「チョー気持ちいい」が選ばれたのなら、北京五輪では関西風に「めっちゃ気持ちええわあ〜」をはやらせたい……。『08年流行語大賞との「2冠」が目標』と、笑ってVサインをつくった。

(福田)

**国** 際企業関係法学科から、中央大学と慶応大学のロースクールのダブル合格した人である。そして進むのは「慶応へ」。すこし小声で言った。

1、2年生の時は山内惟介教授のゼミで、3、4年次は野村修也教授のゼミで、大きな刺激を受けた。

「検察官になりたいと思って法学部に入りましたが、金融法務に詳しい野村教授のもとで商法を勉強するうち、企業法務弁護士になりたい、と思いました」

企業法務弁護士は、企業の内部での違法行為を監視したり、企業間の合併などに立ち会ったりする。規制緩和とともに違法行為も巧妙になった今、社会的なニーズも高まっている。

炎の塔で、ロースクールへの勉強を本格的に始めたのは3年の春からだだったという。夏休みの法務インターンシップがさらに彼女のやる気をアップさせ、みごとに花満開。1校ならず2校も、となると、どちらにしようかとこれはこれで悩ましい。「特に関心があるのが、金融業界。ですから、三田会のつながりでその世界に強い慶応に決めました。経済

界において、法の支配を貫徹させたいと思っています！ あ、なんか大層なこと言っちゃったかなあ」と照れ笑い。こうみえて、勉強だけの4年間ではない。サークルは剣道をやっていて、中学から続けていて、3段の腕前。仲間との飲み会も、コンピニ・塾講師のアルバイトも、しっかり楽しんだ4年間だったそうだ。

「だって、大学って勉強以外でも楽しまなきゃ」余裕、である。それでも勉強をおろそかにしなかつたのは、

**ロースクールW合格 支えた「味の力」 水口あい子さん**

「双子の妹」の存在も大きいらしい。「妹は医大に通っています。良きライバル、というか、これまではどうも妹に負けていたような気がして」

どうして、水口さんの大学生活の締めくくりは、晴れて「法学部国際企業関係法学科・総代」。

「これで、私が一歩リードよ！」卒業式当日。壇上から姉は、見守る妹に、そんなメッセージを送るのかもしれない。双子の姉妹だけで交わすテレパシーで。(津江)

**大** 学に入學して、オーケストラ部に入部した。

幼いころから音楽を？

「祖母のすすめで、小学校3年のときからピアノをやっていました」

でも、部活で担当したのはピオラ。ピオラは初めてだった。

名門・中大は、サークルではなく部だから、練習などもハードなんだろう？

「部活中心の大学生活でしたね。年に2回、演奏会があるんですけど、演奏曲をめぐってモメることもありましたよ」

3年生の時

**オーケストラと学問の道 「楽天」と一緒に東北へ 中川幸作さん**

総合政策学部

には部長もつとめた。部員120人。そんな大所帯をまとめるのは大変なことだ。部活動をふり返ってどうですか。

「人生で一番がんばりましたね。オーケストラ部は3年生で引退なんですけど、部に残り、4年生の間も活動を続ける人も多いです。でも僕はやめました」

理由は「将来のことをゆっくり考えてなかったから」と言う。「オーケストラが大好きだったから、もし引退せずに続ければ、自分は

そのままズルズルと行ってしまおうと思ったんです。だからこそ3年生の引退を機にすっぱりやめたんですよ」

春からは東北大学の大学院生だ。

ゼミでは、数学的手法を使って社会分析をするコンピューターシミュレーションを学んでいた。プラズマ物理学で知られる、ゼミの河野光雄教授が彼にとって大きな存在となっている。

「1年のときからお世話になって いる先生で、僕にとつて、師匠であり、父であり、兄であるような人です」と話す。

院での目標。「研究論文を載せて、学問の分野でオリジナリティを出していきたいです。アカデミックな方面だけではなく、社会にも出たい。それは、部活動を通して、みんなで何かを作り上げていくことの喜びを知ったから。音楽とは、趣味としてこれからも関わっていきます」

新生プロ球団「楽天」と一緒に仙台へ。「この先、楽天的に？」と言ったら、「それいいね」とやさしく笑った。

(猪瀬)



「ぼくは、ドラえもんをつくつてみたいんですよ。小さい頃から欲しかったんです(笑)」

優しい笑顔で話す。精密機械工学

科の卒業研究ではマニピュレーターの研究に携わった。マニピュレーターとはロボットにおける人間の腕に相当するもの。衝撃が加わったとき、柔らかくうけながすことができるマニピュレーターについて静かな炎を燃やす。大学院でも、この研究を続けたいそう。

夢はロボットの「ドラえもん」

理工学部 浅見大輔さん

「アイディアが浮かんだら、それを具現化できるようにしたい。ゆくゆくは、人の手に届くような製品をつくりたいですね」成績優秀。理工学部給付奨学金ももらっている。今でこそ充実した学生生活を送っている浅見さんだが、中大に入学する前は悩んだこともあったらしい。

「勉強したくなかったんですよ。そこで、親に頼んで1年間遊ばせてもらったんです。バイトや一人旅をしたり。でも、1年間も遊んでいるとヒマになっちゃって(笑)。ロボッ

トをつくってみたいかったので大学受験しました。振り返ると中大に入ってよかったです」

講義への熱意が違う。遅刻など論外。

「授業に遅刻するとエンジンがかからないんですよ。悪いことをしたような気がして……気が弱いところは、のび太くんみたいかな(笑)」

合唱のサークルでも心を許せる友だちができた。

「昔は嫌われるのが怖くて意見のぶつけ合いとかできなかつたんですよ。でも今は仲間を信頼できるので意見を本気でぶつけ合って、終われば、笑って一緒に酒が飲める」

理工合唱団では週2〜3回、コーラスやポピュラーな歌を中心に楽しく歌っている。

学・楽、両立ですね？

「一応、できたかな。でも、もつとやれたんじゃないかって思うんです。その気持があるからこそ、またがんばれるんです」

(原田)



「こんな先生に教わりたいなあ」

きつと多くの男子高校生はそう思うだろう。マチガイナイ！

「教える」ことが大好きな先生のタマゴが教育の現場へ飛び出そうとしている。

鈴木さんは、埼玉から片道2時間以上かけて4年間中大に通い続け、英語とドイツ語2種類の教員免許を取得した努力家だ。

私立男子校生と向き合う「ココロと誇り」 文学部 鈴木有美さん

大学時代思い出に残っていることは？ と聞くと、教職課程で義務付けられている「福祉施設実習」のことをあげた。

「デイサービス施設で、お年寄りの方と接していて充実はしていたのですが、でももつと専門的な知識があればと思いました」と、普通ならここで話は終わるのだが、ホームヘルパー2級の資格を、4年の夏休みを取得した。鈴木さんの並みではないところである。

「ちょうど学部から奨学金がも

らえたんです。それで、ずっと思っていたのでここぞとばかりに(笑)、いやあ、楽しかったですよ。高校生から60歳ぐらいの方までいる中で、ふだん話す機会がないいろんな人と話ができましたし。こんなふうに活用されるならば、奨学金も、大学も本望に違いない。

4月からは都内の私立男子高校で憧れの教師生活がスタートする。新任で、しかも男子校……と強調したら、

「そうなんですよー。私はずっと共学でしたから。でも、そんなに違和感ないですよ。

それに私、お笑いキャラだから」と笑顔になった。

教師としてどんなことを伝えたいですか？ 「自分のことをしっかりとできない人間は、他人に対して何も心がけてきたつもりだし、そのことを伝えたいです」

笑顔とは別の、真剣な、すでに教師のまなざしだった。

(滝沢)

「柔道はいいですよ。ほら、すぐそこ講道館がありますから！今から行きましょうか？」  
 中学の頃からずっと続けてきた柔道の話になると、口調も熱くなる。体もデカい。

「大学生の間はOBとして母校によく教えに行きましたが、自分が3年生として後輩を見ていたときとぜんぜん違うなと思いましたね。『何でもつとがらばらないんだ？』とつい自分中心的に考えてしまう。指導者として、これはよくないことなんですけどね」

富樫さんの将来の夢は「教師」なのである。

「柔道の先生も含め、高校のときの先生方の影響です。先生が教えているのを見て、自分も教えてみたいなと思って。教育実習に行ってきたんですが、最後におこなったアンケートで『一生懸命さが伝わった』『化学を好きになった』と書いてくれた生徒がいて、これはとてもうれしかったですね」

もともと教師になるのはすこし先

にして、まずは大学院に進む。

「教育実習を経験してみても、生徒に面白く教えるためには自分にもっと深くて広い知識が必要だと感じました。大学院へ進むのは、今のままではまだ教える立場としての力が足りない、知識をもっと深めたい、と思ったからです。日本セラミックス協会が主催するセラミックス大学にも参加していますし、もっと研究したい気持ちがありますしね」

熱血教師の夢

柔道も研究も

理工学部

富樫伸明さん

「Co<sub>2</sub>吸収剤の研究」をしているそうだが、どのようになれば繰り返して利用できるか、かつ速く、たくさん二酸化炭素を吸収するものができるか、という研究です。ゆくゆくは地球温暖化対策にもつながるのではないかと。研究室の中では最高学年になるので、先輩としての自覚を持ち、また、今以上に食欲に、向上心を持って研究を進めていきたいですね」

研究者の顔を持った熱血高校教師の夢。すばらしいじゃないですか！

(橋本)

亀井義行選手(別項)のドラフト記者会見では、報道陣が見守るなかで司会をつとめた。堂々たる存在感。25年ぶりに「東都」を制した中大硬式野球部、それを陰で支えた主務である。

シャキッとしている。そんな印象を話したら、「立場上、おちゃらけたところを見せられないんですよ。自分がしっかりしないと、って思ってます」

「東都V」を支えた主務の存在感

文学部

北岡克彦さん

長身、恵まれた体。捕手として推薦で中大に入った人材だが、2年のとき主務に転じた。ケガがきっかけという。同時に、「プロにいけるわけでもなく、自分の限界がみえてきた。野球しかできないようにはなりたくなかった」。淡々と語る。

「東都V」の瞬間、「やった！」「と快哉を叫んで、次には「とたんに不安になった」そうである。

「選手はやった！ やった！ いいんですが、そのあとの祝勝会、明治神宮大会……段取りをどうしよう。

できるだろうか。胸が一瞬になりましたよ」

かくも大変な役割なのである。「卒論のことも

あって、シーズンが終わればフリーで自分の時間ができると思ってたんですけどね」とうち明けて、笑った。

「主務の仕事を通して、ふだん会えない人たちに出会えたことはよかったですね」と語る。ダイエー(現ソフトバンク)・王監督とも話したことがある。宮井勝成総監督が王監督の高校時代の野球部監督だった関係で、毎年、宮崎キャンプ終了後に中大硬式野球部は同じ球場を使

わせてもらっているそうだが、その打ち合わせも主務の役目。ほかに寮管理やフロ掃除、選手の生活面も……。75人いる部員を「自分と後輩主務2人」でみる。地味できつい。

そこで得た教訓。「例えば仕事が多すぎて、自分ひとりで抱えそれができなかつたら自分のミスになる。そうではなく、周りの人に仕事を振るんです。そのとき、いかにその人を納得させて仕事をしてもらうかが大切」

地元・高知に帰る。葉の卸売り会社内に定している。ひとまわり大きく成長して、新しい旅立ちである。

(西原)



# 女

だてらに、巨人入団が決まった、あの亀井義行選手インタビューである。

昨年暮れ――。中大硬式野球部寮の階段を、主役はさっそうと下りてきた。昨年11・17、ドラフト当日の記者会見のときとは違つてリラックスした雰囲気、こちらのガチガチの緊張がすこしだけ溶けた。

プロの実感は沸いてきましたか？

「ユニフォームを着ないと、実感はまだですね」。記者会見のときは、「まさに鳥肌が立つようなゾクゾクとした感じだった」そうである。

そうそう、とつづけて、「女の人がカメラマンに怒られてなかった？。あ、あれ、うち（学生記者）のキャップです。亀井選手の写真を撮ろうと前を横切ったところ、どこかのテレビ局のカメラマンに「ちよつと、前を通るときは気をつけてくれる？」と一喝されて……。「あのおかげで、緊張が和らいだよ（笑）」。

よかったわ、チカラになれて。幼少時代はどんな少年だったんですか？ 「2歳からバットを握っていましたがからね。父も兄もやっていて影響もあつて。お前は野球のために生まれた子だ、と両親からは言われてました」。中学で早くも全日本に選ばれる活躍ぶり。そして高校は

大阪・上宮太子高校へ。

「甲子園に出たことで、一つの夢が叶いました」。

センバツは初戦敗退したが夏ベスト8に。期待を担つて、中大に入った。

取材中、手に洗濯かごを持った部員たちが横を通る。洗濯は自分でするんですか？ 「やりますよ、もちろん」。冗談のようにして、主砲は「おれ、やさしいよな？（笑）」と横を通る後輩たちに聞いてまわる。後輩たちは「やさしいっす」と口をそろえて。和気藹々である。そこから、25年ぶりの東都優勝も生まれた。

野球一筋。他に何か趣味とかはないんですか？ 「ほんとなにないんだよね」と困つたような顔になる。特技も、趣味も、野球。朝から夕方まで練習の日々。休みのときはしっかり休む。「野球のために生まれた人の4年間である。うち明けるのだが、私、亀井選手の肩を触らせてもらったのである。記者会見のとき、「肩だけは誰にも負けない」と言っていたのを思い出し、プロにいく選手がどんな肩をしているかと（それを方便に？）。がっ



## 巨人レギュラー獲得 3年計画、イソツプの「カメ」の頑張り

商学部 亀井義行さん

ちりとした筋肉質を想像していたが、コリのないしなやかに鍛え上げられた肩だった。

その人が「大学に入つて3年間、全くダメだった」と語る。「4年の春からですよ、ようやく結果がでるようになったのは。野球を諦めようか、何か違うことを見つつけようかと思つたこともあるしね。まあでも野球はずっと続けていこうとは思っていませんでしたけど」。立ち直らせたものは何だったのか？ 「原点に戻ったんだよ。小学生のとき、自分はどんな感じで野球をしていたか。そしたら、すごく楽しんでやっていた自分

を思い出した。精神的にプラスの方向に持つていったんだ。苦しいから楽しもう、と。やっぱりキャプテンになったのも大きかったのかもしれない。自分だけに集中するだけでなく、周りも見えないといけない、結果にとらわれなくなった、のかな」

ヒット数で東都リーグ歴代10位、ホームランは歴代7位の13本。ファインナルの記録は見事というほかない。辛かったとき、心の支えとなったのはやはり両親だったそう。「親は、

口にだして言わなくても分かっている。支えでした」

巨人での背番号は「25」。東都Vも25年ぶり。縁起がいい！と声はすませたら、「そうやる？」と気さくな関西弁になった。

好きな言葉を聞いてみた。「野球を楽しむ」と言つてから、「あと、一言でいいたら、笑顔」かな。これは阿部（慎之助）さんから教えてもらったんだけど、苦しいときも笑つていれば幸せは降ってくる」と、自身を振り返るように話した。

まずは「開幕一軍をめざしたい」。目標はそこにある。「とにかく3年間は決めてあることがある。外野手として、2番手を維持し、コツコツと経験を積む。で、3年後、レギュラーをとりたい」。巨人ゆえの、ポジション争いのきびしさは承知のうえである。

年明けて1月8日、巨人の寮生活が始まった。14日から合同自主トレに参加。2月1日からは巨人軍の宮崎でのキャンプに入った。

ウサギは足の速さにかまけて昼寝して、カメは地道に一步一步坂を登った。そしてカメが勝つ――。

「ニックネームは亀でいいです」。記者会見の言葉がイソツプ物語に重ねてよみがえった。

（白田）

「インターンシップで得たものは、誰にも負けない」——これほど多様なインターンをやった人も珍しいだろう。

2年次に、法学部の「やる気応援奨学金」で、知人のつてでアメリカのチーズ工場に1カ月間のインターンを頼みこんだのが事始め。

「英語力は格段にアップしたけど、やったこともないチーズ作りを朝5時から。異文化も痛感しました。狩猟マニアの雇い主とコミュニケーションを深めるために、得意料理のカレーを作ったり、キーボードを借りて一緒に演奏したり。買い出しに行くと最初は波乱万丈だったよ。」

3年次は、学部講義の「行政インターンシップ」で、八王子市役所と東京都庁へ。八王子市では放置自転車からバス停の位置決めなどに参画し、都庁では、自分の企画で人権啓発のパンフやホームページも作成した。「実はホームページは作ったことがなくて、前日徹夜で寮の友だちに教えてもらった」そうだが、就職活動で日本銀行に内定したあ

とも、講師の紹介でロンドンの「大和証券S.M.B.C」へインターン。さらに、日銀ロンドン事務所や国際協力銀行、イングランド銀行本店へメールで打診し、一流のアナリストからイギリスの金融政策や日本の景気回復などについて、話を聞かせてもらった。

ロンドン生活といえは——。「宿は16人部屋のユースホステル。相部屋のフランスやイタリア、ドイツ、ベネゼエラの友だちができたけど、夜はどんちゃん騒ぎ。次の日、自分は仕事で、全部自分でやることの大変さが分かった」という。

アメリカにも渡ってロー・スクールの見、趣味のジャズピアノを深め、帰国して6号館2階の「リソースセンター」の運営も手伝った。総じてよかったのは、「冷静な心」を常に忘れなかったことという。日本経済の金融政策のカジ取り役である日銀。その一員となって、「日本経済の屋台骨となる」日銀短観Vを作成していきたい」と、意気高く語った。

日銀マンへの道——  
多様なインターン経験生がし  
法学部 佐藤浩史さん

(福田)

185 センチ、82キロ。やや薄ながら金髪。いやでも目立つ。

「スポーツ選手はチャラチャラしていると成績が出せないというじゃないですか。でも、チャラチャラしてても成績は残す、ハハハ」言葉通りに、昨年12月の全日本フエンスシング選手権男子エペ戦で団体優勝、その立役者として活躍した。準決勝では強豪・警視庁を破つてのVだった。

「エペ」団体V、金髪の騎士、  
「やるときはヤル！」  
商学部 名和寛文さん

中世の騎士たちの「身を守る」「名誉を守る」剣技に発するフエンスシング。フルーレ、エペ、サーブルの3種目に分かれる、名和さんの「エペ」は、突きだけの勝負で、全身が有効命中面。痛そう……と言ったら、「それはないけど。剣をしならせて背中を突かれると、そりゃあ痛い！」。もとはピアノが得意だったそうである。高校では吹奏楽部に入ろうと決めていたのに、ガタイに見惚れたフエンスシング部の監督に無理やり入部させられた。「絶対お前を世界に出してやる」と。順調に、メキメキ力を発揮して、中央大学に。が、大学では成績ゼロという

日々が続いた。同期は日本代表にもなっていた。3年生になる前の春休み、日本代表の選考会に出場することを決意する。親にも「勝てなかつたらやめろ」とまで言われて。出発点の高校で、手強い中国人相手に猛練習した。その甲斐あって「何とか日本代表に選出されました」。余裕が出てきた。波に乗る。日本代表合宿に参加し、内容の濃い基礎練習がモノをいったのだ。

部では主務エペ部門ではキャプテンもつとめた。「やりたくないときは帰ってよい。練習のやり方も名和流である。その彼が、」フエンスシングを続けたいけれど」と言う。スポンサーがいない悲しさ、ナショナルチームに入るだけで300万ほどかかるのだそうだが、すべて自分持ち。「それに勝つて当たり前。そんなプレッシャーにすこし疲れた」と漏らして、「こんどは教える側にまわりたい」。高校教員をめざすという。やるときはやるカレである。なんとなく、女子高生を騒がせそうでもある。

(西原)



## 理

工学部の学生は大学の研究室に閉じこもっている、と思われがちだが、ここに外部の研究機関で奮闘する女性研究者の姿がある。

電気電子情報通信工学科の中田さん。独立行政法人「情報通信研究機構」で電磁波による生体影響の研究中である。ウザギの眼にミリ波と呼ばれる電磁波をあて、その影響を調べるチームの一員として活躍している。

「携帯とかの電磁波がよく人体に影響を及ぼすっていうじゃないですか、それに興味をもつて」。ミリ波は車間距離の通信に使われ、将来、交通システムにも使われるかもしれない。

「ミリ波の影響が人体に及ばないか。もしかしたら、人の眼に白内障などの影響を及ぼす可能性があるかもしれない。ミリ波が社会で使用される前に生体への安全を確かめる必要があるんです」

外部研究機関で研究するには大学院進学が条件。大学とは違い、結果も求められる。それでも、中田さんは前向きに努力を続けている。旅行も好きで、オーストラリアへの留学や海外への貧乏旅行もしばしば。

留学が終わった後もホームステイ先に会いに行ったり。「せつかく仲間良くなったのだからつな

がりは大切にしたいですね」今年夏には「エアエステ」を通じて、海外インターンシップも決まっている。「エアエステ」は理工

農業系学生のためのインターンシップを仲介している国際NGO。国際的な広い視野を有するエンジニアを養成することを目的としている。

### 電磁波の生体影響は？

#### ミリ波研究

工学部 中田 優さん

「先輩に薦められて派遣生となるためのテストを受けました。リスニング、英訳

そして英語での面接。緊張しましたね。合格したときは、すごくうれしかったです」

派遣先は未定だが、夏にはヨーロッパにでもいるかもしれない。現在は一緒に研究室の留学生に英語を教えるもらったりと精進の日々を送っている。

（原田）



## 01年、横浜国立大学

にも合格したが、中央大学を選んだ。「勉強の環境も、設備もすばらしい。都会のご真ん中はあまり好きじゃないですよ」

なめらかな日本語である。中国の短大卒業後、郷里・蘇州の旅行会社に就職。99年に中国から単身来日した。話せる日本語といえば、「ありがとう」と「すみません」だけ。2年間日本語学校に通った。4時間のバイト、睡眠時間はわずか3時間に減らして、残りの時間を日本語の勉強にあてた。日本語習得のコツは？

### 流ちょうな日本語で

#### 「青春は日本に捧げました」

商学部

周継偉さん

ペンと紙の辞書を持ってドラマを見るんです。分からないときはすぐに辞書を引く。電子辞書と違って紙の辞書は、そのページに載っている他の言葉も覚えられますからね。日本に来て一番うれしかったことは？

「去年の春に、商学部の奨学生になれたこと。自分の努力を評価していただいたことがうれしかった」と、笑顔になった。

来日前の日本に対するイメージは「働きバチ」と「礼儀正しさ」。来日後、それが「仕事好きもいれば怠け者もいる」に変わった、とい

う。どんなときに礼儀正しいと思いますか？ 「例えば銀行で、日本人はじつと自分の順番が来るのを待っているでしょう。でも中国人は前に行こうとする競走社会なんです。とくに権力のある人は平気で割りこんだりしますよ」。その競争心が、一方で中国の経済発展の基礎なのだろうか。周さんはこうも指摘する。「中国はアメリカや日本を悪いと思っているが、現実が変わっています。他国を認め、もっと親しくしないと政治もよくなりません。経済力を上げないと、人間の秩序の乱れも改善されません」。衣食足

りて礼節を知る？と言ったら、「そうそう」とうなずいて、「だから私は両国のパイプ役となつて交流を深めていきたいと思います」と言葉を継いだ。

卒業後は親孝行のために中国へ戻り就職活動をする。彼の夢は、機械メーカーの日系会社で経営コンサルタントになること。

「中国の短大時代はバイトもせず、学校と家の往復だけで刺激がなかった。自分の青春は日本に捧げましたよ」と満足の笑みがこぼれた。

（大池）

## 「社会人入学」と聞いただけで驚く時代は、もう終わったのかも知れない。リカレント教育・生涯教育などと叫ばれて久しいが、

現役の会社社長が会計学科の学部生として一から会計学や経営学を学んだ——それも、講義は4年間無欠席。

中村孝さんは56歳。さいたま市にあるポンプ設備販売会社の社長さんだ。

入学の動機。「自分が20歳の頃は学生運動真っ只中で、こんな状況で大学に行ってもムダ、と社会に早く

出たかったんですよ。いわゆる進学校にいたので、高卒で就職したのは30年以上前でも私だけでしたけど」

社長業は年中無休だから、入学には思い切った決意が? 「自分の幅を広げたくて。そして、新たな刺激が欲しくてね。入学を決めた時は幸か不幸か経済が最も停滞していた時期で、比較的仕事も閑散としていた

ので(笑)、ちょうどよかった。ハッハッハ」

社長業の傍ら、浦和から片道約2時間の通学。「移動時間などを勉強時間として有効に使いましたよ。い

や、時には朝一番に那須(栃木)の方で仕事をし、終わったら新幹線に飛び乗って講義に来たこともあり

ました」。新幹線通勤ならぬ新幹線通学である。そこまでして、学習意欲を維持させたもの。それは「魅力的な講義」だったという。

「実際、大学で会計や経営を学ぶと、いかに自分の会社がドンブリ勘定だったか身にしみました(笑)。もちろん、実際の現場と大学で学ぶこ

との差はありますよ。でも、問題に対する捉え方や考え方が依然と比較になら

ないほど広がりましたね」

豪放磊落。親子ほど年の違う学生へ向けて、会計学士の社長は語る。

「会社の意思を決定する者として、経営の基礎を身につけられたのはこの年になってですが、とても有益でした。ただ、大学で学ぶものというのは、すぐに即効性があるものではないと思うんです。しかし、絶対にどこかで役に立つ。だから講義を真剣に自分のものにする。

大学生にはこのことを何よりも伝えたいですね」

(滝沢)

## 「人」が持っているエネルギーって本来大きいものだと思うんです」

全国の政策学部系の学生が集まる交流会のスタッフとして走り回った学生生活を捧げるようにして。その体験を集約しようと言葉だ。

全国に散らばるスタッフと連絡をとりあうのは大変だったのでは? 「確かに大変だったけれど、企画を練り上げ、交流会を成功させていこうとする

なかでできた仲間との信頼関係はかけがえのないものなんですよ」

と、笑顔のをぞかせる。

その出会いを通して、「井の中の蛙」だった自分にも気づいたという。一歩踏み出す勇氣によって自分が大きく変われるということも。

郷里・愛知県の高校教師になる。教師という職業に何かさせたものも、やはり人とのつながり。とりわけ、家族とのつながりだったようだ。

「どこの大学に進学するかということでは非常に悩んだんです。そんなとき、父親が背中を押してくれて。自分の受験体験も含めて、進路について悩んでいる子供たちの

手助けができたらいいなと思うようになりました」

そのあと、こう続けた。「でも、教師としてただ仕事をこなすのではなく、趣味や研究を充実させて、人として輝いている生き方がしたい」

「素敵な生き方」の先生は、たとえばゼミの細野助博教授。「尊敬している」と吉野さんは何度も口にした。細野ゼミでは、机上の学習よりもフィールドワークに軸足を置いている。羽

村市の商店街で顧客満足度調査を行い、その結果に基づいて街おこしをしたり、多摩地区でクリスマスイベントを開催したり。市役所職員をはじめ、社会人との共同作業も多かった。

「以前は目立ちたがり屋で、華のある仕事ばかりに興味があったけれど、いまは組織全体の利益となるような自分の役割は何かってことを考えるようになりました」

人と人の関わりのなかで、そのつど自分を見直していける柔軟な姿勢。そして、なにより一回一回の人の出会いを大切にしようという気持ち。笑顔と一緒に、大切なものが素直に伝わってきた。

(植松)



文系から空へははたく卒業生がいる。

「小さい頃からの夢でしたねえ」  
にこやかに、中窪さんは話す。

彼はこの春からJALに入社し、パイロットとなるのだ。

アメリカ・アイオア州で生まれ、15年間を過ごした。いわゆる帰国子女である。さぞかしTOEICなんかもイイんでしょね、と聞くだけヤボだった。

「TOEICは満点」なのだそうである。べつに自慢するふうもなく、「それよりうれしかったのは」と言う。「国連英検の特A級をとれたこと。東大の助教授や、英文学の教授といった方々と一緒に受験しました。日本での資格者は何人もいない、というエキスパートの証明である。英語力、アメリカでの12回もの引越し経験のタフさも武器に、就職活動に入った。

「本当は大学院に行きたかったのですが、父が亡くなってしまったので厳しくなっちゃって」

思わぬ悲劇だが、父親は料理人。引越しの多さは、いわば包丁一本サラシに巻いて米大陸を渡り歩いた

父の雄々しい足跡である。就活では、興味あることを手当たり次第受けてみた。

「パイロットの憧れはあったが目が悪かったためダメだと思っていたので、パイロットではなくても航空関係の仕事につきたいなあと考えていました」

実際にパイロットになるためには視力はそれほど問題にならないようだ。

年に1万人もが受けるJALのパイロット試験。試験自体は頻繁にあるが、一生に1回しか受けられない。一番難関なのが身体検査。目の項目だけでも何十通り。

「まるで人体実験のようでした」  
パスするのは月に20人もいない、らしい。

英語力は役に立ちましたか？  
「いえ、べつに。国連英検だけは、へえそうなの、と試験官に言われましたけど」  
パイロットという理系という感



じがするが、半分以上が文系だそう。

「パイロットは管制官やクルーとコミュニケーション

ションが大事だから文系のほうが多いのかな」

パイロットへの道のりもまた大変である。アメリカでの初期訓練、国際空港の業務に慣れるため3カ月から1年ほど働き、座学だけでも1年半、そして最短で4年半後に副操縦士になる。

空へ！ 未来のJALパイロットは「国連英検特A級」  
総合政策学部 中窪太一さん

その10年後に、晴れて機長に。そんなにもかかるのだ。パイロット

になることが決まって家族の反応は？

「自分でがんばりなさいよ、と母親に言われました」  
個の自主性。さっぱりとした家風なのかもしれない。

私も大空が好きでバルーンやってるんです、と言ったら、

「うらやましい。大きな声では言えないけれど、僕あんな小さなボックスで空にあがるのは苦手。真似で

きないよ」  
と、未来のパイロットは首をすくめて笑った。  
(町田)



## 2

年の春休みに、「やる気応援奨学金」を使い、アイルランドでホームステイした。「時間があるからいろんなことができると思ったんです」とさりげないけれど、なぜアイルランドへ? 「語学の勉強をしたかったし、日本人があまり行かなそうだし……それにサークル(国際関係研究会)でアイルランドについて調べていたんです」

ゲルマンに追われて島嶼に散らばった古代ケルト文明の地。渦巻くケルト文様、妖精伝説……私はエンヤくらいしか知らなかったのだけれど。アイルランドと日本は文化の面で似ており、浦島太郎のような話もあるらしい。

1年の時にも法学部の短期留学でアメリカンスタディーズセミナーに参加したという。あの9・11米同時多発テロ(01年)の2週間前、消失した貿易センターの前で写真も撮ったそう。

「国際派? そんなことなく、ただ知らないことを知っていくのが好きなんです」。大いなる好奇心。4年の夏には教授の紹介で大和総研に2週間、インターンとして働い

た。自己株式取得に関する商法改正(自分の会社の株が持てるようになり、会社の資金調達につながっていく)の流れについてのレポートを提出し、レポートは大和総研のホームページにも掲載されている。出来のよさを証しだろう。

インターンシップを終えて、本番のロースクール受験に臨んだ。インターン中に得た商法改正の知識が試験でも大いに役立ったという。みごと合格。4月からは中央大学のロースクールへ通う。

### ケルトの風を呼吸して…… 中大ロースクールもみごとにパス 法学部 千葉友美さん

「合格率が低いので不安でしたが、予習復習をしておけば大丈夫です」と、これもさりげない口調だけれど。

将来の夢は? 「私はゼミで人権・環境を学んでいました。だから『社会的責任をアドバイスできる』弁護士になりたいですね」

法律だけでなく、世界の言語や文化、金融と彼女の興味は尽きない。外国経験もきつとプラスするだろう。大学の4年間を、「充実していました」と笑顔で総括した。

(大池)

## 政

治学者めざして、大学院の法学研究科政治学専攻へ進む。

法学というのと、とかくロースクールに話題がいくが、渡邊さん曰く、「ロースクールは実務的なものなんです。僕はそういうものではなくて、現実から一歩ひいたところからの研究がしたい」そう。

所属したゼミは主に公共政策関係。少数者だったそのゼミでは、テーマを選び、その後ディスカッション。そこで得られたものは大きく、皆の前で発表することの大切さや、周りのメンバートやとりよりの楽しさだったり。

### 鉄道マニアの 「夢は政治学者」へGO! 法学部 渡邊陽一さん

「サッチャー政策における公共の市場化」。卒論のテーマである。「最近ではあまり見かけないテーマを選択したかもしれないですね」と遠慮がちだけれど、「小さな政府」すなわち現在のイシューであることくらいは、私にも分かります。

サークル活動にも燃えていた。「鉄道研究会に入っていました」と、

卒論の話より熱がこもる感じ。いずれ劣らぬマニアぞろいのなかで、この人は「遠いところでは、九州の枕崎から北海道稚内まで、電車を乗り継ぎ、鉄道を満喫しました」と胸を張り、「だんだんと気温が低くなっていくんですよ」と振り返ってはにやり笑顔になる。

去年は創部40周年。「中大鉄研40周年号」というヘッドマークをつけた列車を走らせたそうである。《上

野発、高崎経由、毛呂行き》。4、5時間の旅ですが、全員で100人

弱はいましたよ。事前にJRの人と交渉を重ねて、貸切にすることができました。5両編成で、その中3両を貸切にしOBの方と昔の鉄研のアルバムを見ながら、こちよく揺られました。大満足の笑みである。

「OBとの交流を大切に、そこからうまれる新たな視野を広げてほしい」と後輩への思いを語りつつ、大学院での福祉国家研究へ。出発進行である。

(白田)



# 応

援団副団長。リーダー部長を  
任じた。昨年11・8「25年ぶ

り東都V」の硬式野球部優勝報告会  
でも多摩キャンパス・中央ステージ

で、キビキビと応援歌の指揮をとった。

応援団(部)は、他に華のチア、ブ  
ラスコアと計3部会あるけれど、束  
ねて仕切るのは、やはり声大きい  
リーダー部。なんでしよう?

「野球や相撲、駅伝の大会ではそ  
うですが、アメフトはチアですから。  
僕らは端っこで応援します」

なるほどね、純アメリカンとはソ  
リが合わない、かもしれない。

年中、詰め襟の学生服。もちろん、  
きょうもそうである。

暑いでしょうね、夏場は。「ええ、  
夏は暑く、冬は寒いです」。買う人

マレだから、けっこう高いんでしょ  
う? 「入学時は、6万5000円で

した」。セビロよりよほど高い。「い  
ま着ているコレは9万2000円。

3年の幹部になると、裏に刺繍入り  
が許されるんですよ。ええ、特注です」。

質実剛健の道も、なにかと物入りな  
のだ。

入学時、やったことが2つある。

応援団入部と、新聞配達  
である。島根県から上京

してすぐだから、新聞の  
ほうが早い。販売店住み

込みで午前1時半には寝床から起き  
て、朝刊250部ほどを配る。終わ

るのが6時半ごろ。夕刊配達は午後  
3時から。これを毎日、4年間つづ

けた。やりとげつつ応援団、これは  
二重三重のハードさである。

「厳しさは望むところですよ」と、  
彼は言った。入

部の動機もそう  
だった。「自己

満足して、ふだ  
ん厳しさが足り

ない、と思っていましたから、鍛え  
てもらおうと」

それでも、「何度も応援団を辞め  
ようと思った」そうである。

「体が辛くて、単位も落としたり、  
全部が中途半端。部に迷惑をかけて、

自分が必要とされてないのではない  
かと悩みました」

試合が山場でも、夕刊時間帯にか  
かる前には現場を去らなければなら

ない、辛さ。代わりに、幹部になっ



てからも荷物運びその他  
の下働きを、進んで担っ

た。授業のほうは、「時  
間的に出席できない授業

は、再履修」と、割り切つて。ちな  
みに、法の一般入試入学組である。

「東都V」がかかった11月5日。  
この日だけは別だった。「夕刊配達

を仲間にならなくてもらつて」最後ま  
で神宮に立ち、心のかぎり、熱血応

援をつづけた。新春の箱根駅伝は新  
聞がないから、

むろん。4年  
最後の応援の  
舞台になった。

## 「応援歌ア…」新聞配達 やりつつ応援団の熱き心 法学部 荒川勝彦さん

気合いの男

集団、中はどうなんだろう? ヨソ  
の大学のようなことはないようだ

ど、1、2年のころは「気づいたら、  
ケリを入られていた」どやされて、

腕立て伏せ」なんて、理不尽やフジョ  
ウも、ままあつたらしい。「ぼく

はやりませんでしたけど」。そうだ  
ろうな、と思わせるタイプだ。

レンアイなんかはどうなんです?  
「全然、なかつたです」

ホッ、ホッと笑う。照れたよう

にして。硬派のカガミである。「後  
輩に一人だけ、彼女と付きあつてい

るのがいました」。ホッ、ホッが、  
こんどはやや悔しそうに聞こえたが、

中大応援団は60数年の歴史を誇る。  
「全日本応援団」の加盟校数あるな

かで、「一番のしにせ」なのだ。

荒川さんの入学時、部員は13人い  
た。まだしも多い。部長をつとめた

4年後は——1、2年が各1人、3、  
4年が各2人、どう計算しても6人。

「孤塁を守る」美学ひとしおではあ  
るけれど、後輩がまた伝統と美学を

リンと受け継いでいくだろう。

見かけによらず、「自分をダメ人  
間と思うほう」だと話す。「だからこそ、

大変いい勉強になりました。今も未  
熟ですが、礼儀一つとっても、昔が

あるから今がある。そんな中で学ん  
で、4年間に悔いなし、です」

商工中金に入社する。「自己実現  
のために、というのがはやり言葉で

すが、自分は仕事第一に、仕事人間  
としてやっていきます」

律儀に語る、この人の熱い心を形  
容すれば、《持続》——だろうか。

(編集室)

「日本には今、700兆円を越す公債発行残高がある。財政難の中、増税の動きがあるけど、例えば消費税を1%上げても1兆円程度しか税収は増えない。行政は国民の税金を使う以上、国民のための行政を行い、不正をなくして、アカウソタビリティ（説明責任）のある行政を構築していきたい」

4月からキャリアとして会計検査院で、国の収入・支出のお目付役の一員になる清水さんだ。

公務員を志望したのは、大学院に進学してからだという。

「総務事務 次官だった担当教授の勧めがあり、思えば、人に接するのが好きだった。公務員は人に接することが多いし、自らすんで国民の幸せに奉仕していきたい、と思ったのです」

後輩にもぜひ公務員になって日本をよりよくしてほしいと、昨年11月17日、キャリアセンターや所属する行政研究会等の協力を得て、公務員試験受験予定者を対象に「証言／公務員試験突破の大戦略」というデスカッションを、学生主体で初めて開催した。公務員試験に合格した仲間たちが、無報酬でパネラーを引き

受けた。

「3号館の大教室から溢れるほど、学生が集まってくれた。仲間とともに、6年間の集大成として大成功でした」

ところで、この清水さん、実は柔道三段の腕に加え、調理師の顔も持っている。

中華料理店でのアルバイトでは、1日にネギを200本切ることに始まり、ヤケドを負いながらも、ギョーザにチンジャオロース、北京ダック

### 調理士免許持ち

### 会計検査院キャリアに

### 総合政策学部 清水雅典さん

人暮らしというのに、2DKのわが家にはシステムキッチンを備え、料理研究怠りなし、なのだろう。多才な人である。

「学部卒業時は、料理人になろうかと本気で悩んだくらいですよ」 いや冗談じゃなく、という表情で笑った。

6年間の学生生活を振り返って、「大学に入って変わったことは、飛躍的に自分から行動するようになったことですね」と、充実感いっぱいである。

(福田)

イギリスのウェールズに1年間留学していた。

「イギリス人はシャイな人が多い印象ですが、ウェールズ人は陽気な感じでした。イングランドに併合され、迫害を受けていた地域でもありますから、イギリスの国旗を自分たちの国旗と思っていなくて、ウェールズの旗、レッドドラゴンを国旗なんだとしています。ウェールズ人か、ブリティッシュかという感じ」

### ウェールズ留学で学んだ

### 「ゆとり」感覚…5年生の弁

### 経済学部 丸山真一郎さん

「僕は、けっこう長期旅行で海外に出かけているんです。オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、イタリヤにも行きました。帰ってきて、『変わるんないね』といわれたのはたぶん旅行をしているせいもあると思います」

授業も抵抗なく？ 「いや、本場は次元が違うという感じで、シヨックでしたよ。後半には大体できるようにになりましたけど。テストは3時間間の筆記で休憩なし。シンドイです」

なんているんですか？

「日本に興味を持つてる学生はあまりいませんでしたね。あ、日本語学科の人たちは別ですが。向こうの私たちは、自由に重きを置いていて、食にはあんまり関心がない。スシを作ったあげたんですけど、評判は……まあ、こんなもんかな。焼酎は人気でした」

「日本にいて、自分で動いていかないと、楽しいことも得られない。留学してよかったことは？」

「日本にいると日本のマイナス面がよく見えるけど、外国にいるとプラスに思えてくる面もあります。たとえば電車。日本はちゃんと時間通りに来る。でもイギリスはon timeが珍しいくらい。僕は、旅行は何度もしていたけど、住んだことはなくて、ゆとり生活できてよかったです。こういう価値観もあるんだって。日本みたいに必死に働いていないところ、ゆとりを感じます」

卒業を1年遅らせた。「ストリートで就職するよりも、何か得られたと思います」 いい遠回りをした、自信の弁と聞こえた。

(猪瀬)



ゼミ相互の壁を取り払おうと、「ゼミ連」の委員長をつとめた。

たとえば、ゼミ別対抗ソフトボール大会。「大会1週間前は大変でしたよ。朝9時に登校して、そのまま夜の11時、閉門までずっとゼミ連室にこもりつきりでした」

目をひくのが、久家さんの代から始まった商学部ジャーナルの発行だ。取材中、「中大をどう思いますか？」と逆に質問された。いきなりだったので、「……静かな感じですよ」と凡庸な言葉になっ

たのだが、彼は「うん。それはよい意味でも悪い意味でも

「ゼミ連委員長」

商学部

久家朋治さん

大車輪の日々

子には、この相談会を訪問して、実際就職先が決まった人が何人も載っていた。これには3年生が300人、4年生が60人参加と大変な盛況。「まず一人ひとりの就職したい職種を聞くことから始めたんですね。それから個人に合わせた手助け、たとえばOBの方を呼ぶなど。反響面でも、大成功でした！」

れるのですが、まず帰属意識がないと思うんですね。中大にはこんな景色や施設があつて、こういう利用方法がある。大学の中をよく知ってもらつて、せつかく入学したからには中大を大好きになつて卒業してもらいたい。そんな意味も含めてジャーナルの発行に携わりました」と、アツイ！

個人的にも行動派である。「1年生のとき、塾をつくつたんですよ。高幡不動で、ちゃんと一室を借りて始めました。でも、生徒が2〜3人程度しか来なくて、半年で倒産で

したね」。当時を思い出し、笑いながら。2年の夏からはNPO法人でインターンを経験。朝から夕方まで、仕事は雑務だったが、他大学生とも一緒に、講演会の企画作業を間近に見、全国知事の話も聞くことができたという。

久家さん自身は銀行マンに。「今になつて思うことは、自分の軸(判断基準)が見えてきたということ。いままでしてきたすべての活動が肥やしになつていきます。人を活性化させたいという思いが原点になつてい



学生記者取材班

【3年】

西原香保理 || 経済学部  
橋本奈緒美 || 理工学部

原田 成 || 同

福田 成幸 || 法学部

阿部 恭子 || 総合政策学部

【2年】

津江 瞳 || 文学部

猪瀬 智巳 || 商学部

白田 彩乃 || 同

町田 梨絵 || 同

【1年】

滝沢 孝祐 || 総合政策学部

大池 夏未 || 同

植松 歩美 || 同